

まごころのおくりもの 1月分

金銭の部 (一般分)

横田照夫先生を囲む会 様
大洲市

(指定分)

《喜多地区社協へ》
堀 泰 男 様 田 口

《平野地区社協へ》
梅 林 邦 吉 様 平野町

《南久米地区社協へ》
奥 平 浩 二 様 北 只

金 野 功 様 北 只

《菅田地区社協へ》
松 岡 良 明 様 菅田町

《柳沢地区社協へ》
亀 本 和 男 様 田 処

《三善地区社協へ》
池 田 和 子 様 春 賀

《肱川地区社協へ》
上 甲 茂 勝 様 肱川町

周 藤 安 子 様 肱川町

今 宮 雅 司 様 肱川町

《特別養護老人ホーム

かわかみ荘様へ》

草 莽 の 一 蛩 様 大洲市

あたたかい善意をありがとう

ございました。感謝をこめて掲載

させていただきます。

その後、高木先生による講演が行われました。
福祉とは、「⑤だんの④らしの①あわせ」です。住み慣れた地域社会で皆が「⑤④①」を感じて暮らすためには、専門家だけで大洲市の全住民に対応するのは困難です。しかし、ボランティアや地域の一般住民の方と一緒に取り組むのであれば、格段に注意が行き届くこととなります。
例えば近所で認知症高齢者が歩いておられるのを見て心配である。そのことをどこへ相談するのか住民が知っているだけでもその地域は違ってきます。子どもから大人まで、知識を持った方が少しでも増えることにより、地域の福祉力も向上していきます。

今、どの地域にも「福祉共育」が必要である理由には、社会関係が希薄になっているという現状が共通しています。
子どもたちには、地域には色々な方が生活していて、どんな人がどんな生活をしていて、自分たちにとってどのように関わっているのか知ってほしいと思います。そして、それを学ぶ時には学校の枠だけではなく、地域住民にも、福祉施設にも参加してほ

てあります。専門家だけでは対応しきれない様々な問題が重複しており、個人の努力だけでは解決できない課題が出ています。そのような中、総合的な取組として地域の方の力が必要なのです。
学校で「福祉共育」を始める時、出発点としては東日本大震災から学んだ防災教育でも、地域から出た生活課題を考えることも構いません。しかし、大切なのは、そこから地域と協力して自分たちの学校でオリジナルの「福祉共育」を創り出してほしいということです。
最後に先生は、ぜひ大洲市オリジナルの活動計画を作成して、ステップ(世代)で区切らないで続けて行ける「福祉共育」を目指してほしいと話されました。
大洲市社協でもこの研修会を今後にごつつなげていくかを考える研修会となりました。



休憩時間には盲導犬PR犬のマルクとシヤンテイトとふれあいました。



最後は皆で記念撮影!

当日、参加者の皆さまにご協力いただいた盲導犬育成のための募金は合計64,932円となりました。たくさんのお応援をありがとうございました。